三百年の恒例行事を中止

大町市美麻の国指定重要文化財・旧中村家住宅で毎年行われていた正月恒例の行事、「巻き俵（まきだわら）」の張り替え作業は今年、神城断層地震の影響で中止が決まった。３００年の伝統をもつ無病息災と地域の繁盛を祈る縁起物の行事が途切れることを関係者は残念に話し、修復後の実施を検討している。（2015.1.7）

美麻源流太鼓が義援金

神城断層地震で大町市内で被災した美麻地区の源流美麻太鼓（合津富吉会長）は19日、ばち納め演奏会「源流からの鼓動26」で集めた募金２万２３８円を、同じく被災した白馬村・小谷村に贈った。

合津会長や子供会最年長の高校２年生・江津友貴君（17）＝青具＝、保科香菜子さん（17）＝青具＝、川田菜月さん（17）＝大塩＝の３人が同日、市役所を訪れ、北アルプス広域連合長の牛越徹市長に義援金を託した。半額ずつ、両村に届けることが約束された。（2015.1.7）

美麻連合自治会が義援金

神城断層地震で大きく被災した美麻地区連合自治会は13日、市内被災地に義援金２万円を贈った。

被災時に役員だった、前会長高橋正勝さん（71）＝青具＝と前副会長塚田寛政さん（67）＝二重＝が市役所を訪れ手渡した。（2015.1.15）

麻倉でメンドシーノ工芸展

大町市と姉妹都市・米国メンドシーノとの芸術交流をたどる「工芸をめぐるふたつの町の国際交流展」は６日、同市堀六日町の麻倉で始まった。交流の原点に戻り、交流の歴史をひも解く。22日まで。

昨年夏に米国での訪問交流展に参加した、計15人約50点が並ぶ。（2015.2.7）

大北農振推進協 食のグルメグランプリで表彰

大北地区農業振興推進協議会は３日、平成26年度大北農業パワーアップ研修会を大町合同庁舎５階講堂で開いた。同協議会が昨年実施した「食のグルメグランプリ２０１４」の表彰があり、期間中に最も多く票を集めた大町市の農園カフェ・ラビットの「美麻ジビエの鹿ホットドッグプレート」がゴールドグランプリに輝いた。（2015.2.7）

残雪にフクジュソウ 美麻の新行高原

大町市美麻の新行高原で里山に春を告げる山野草、フクジュソウの開花が始まった。５日には、真っ先に雪解けが進んだ「新行福寿草園」の南側の土手一面に黄色い花が咲き、残雪の間で日差しを受けてキラキラと輝いていた。

同園は同地区の子ども会育成会（松倉栄一会長）が主となって春の株分けや周辺の環境整備などを行ってきた。（2015.3.7）

パンダクラブ閉講

大町市美麻公民館が開く親子教室「パンダクラブ」はこのほど、美麻総合福祉センター梨嶺母子健康センター多目的ホールで本年度最後の講座となる料理教室を開講した。６組の親子が参加し修了証などを受け取った。（2015.3.12）

地域と共にある学校づくり

本年度コミュニティ・スクールを開校した大町市の美麻小中学校でこのほど、「学校支援ボランティア研修会」が開かれた。ボランティアや教諭、保護者ら約20人が参加。横浜市の東山田中学校コミュニティ・ハウスの竹原和泉室長を講師に、ボランティアとしての心構えなどを学んだ。（2015.3.17）

15年節目に15㍍巻きずし

美麻地区社会福祉協議会（飯沢要会長）は27日、同市美麻の総合福祉センター「梨嶺」の15周年の節目を祝い、長さ15㍍の巻きずしづくり交流会を同センターで開いた。（2015.3.28）

ぽかぽかランド美麻 一部営業再開を祝う

大町市の大町ライオンズクラブ（遠藤みどり会長）は12日、神城断層地震復興イベント「みんなで頑張ろう美麻」を美麻青具のぽかぽかランド

美麻で開いた。神城断層地震で被災した施設の一部営業再開を祝い、被災住民の元気を願った。（2015.4.13）

「静の桜」里帰り
巨木の遺伝子若苗に後継

大町美麻大塩で住民が植樹「静の桜」の愛称で知られる、大町市美麻大塩の県指定天然記念物「大塩のイヌザクラ」の遺伝子を引き継いだ後継樹の苗木5株が21日、増殖事業をしていた国立研究開発法人・森林総合研究所材木育種センターから里帰りし、静の桜公園に植樹された。８００年以上の樹齢をもつ巨木の遺伝子が、若い苗に引き継がれた。（2015.4.23）

美麻小中学校に前庭完成

大町市の美麻小中学校（塩島学校長）で5月31日、「夢の合校がっこう憩いの場づくり事業」で整備していた前庭の完成式典を開いた。作業に取り組んだ児童・生徒やＰＴＡ、学校支援ボランティア地域部や来賓ら約１００人が、子どもや住民の集う憩いの場の完成を祝った。（2015.6.2）

ごみゼロ地域きれいに

大町市の美麻小中生が作業

大町市の美麻小中学校（塩島学校長）でこのほど、児童・生徒による「ごみゼロ運動」が行われた。小学4年までの児童は7日の学校運動会に向けてグラウンドを中心に作業。5年以上は、登校時に通学路周辺のごみを拾い、きれいな地域のために活動した。（2015.6.7）

園児も参加元気に競技
美麻小中学校で運動会

大町市の美麻小中学校でこのほど、第40回大運動会が開かれた。みあさ保育園とも合同で行い、園児、児童、生徒約１００人が参加。父母や地域住民が見守る中、学年の差を超えて共に手を携え、楽しく元気に競技に臨んだ。（2015.6.14）

姉妹都市海越えて交流
メンドシーノ大町芸術・工芸展

大町市と姉妹都市の米国カリフォルニア州メンドシーノとの芸術・工芸展「ふたつの町の国際交流」が26日、大町市中心市街地の「麻倉」「わちがい」「塩の道ちょうじや」の3会場で始まった。32人の作品約１５０点が国境と文化を越えて多彩に共演している。7月26日まで。（2015.6.27）

メンドシーノからようこそ

美麻に訪問団　山村を体験

大町市の姉妹都市・米国カリフォルニア州メンドシーノの訪日団18人が3日、ホームステイ先の同市美麻に到着した。8日まで5泊6日の日程で、ホストファミリー宅で日本の山村暮らしを体験。子どもたちは、美麻小中学校での交流事業に参加して両国の絆を深める。（2015.7.5）

日米の子ども書道で交流

大町市の美麻小中学校（塩島学校長）で7日、同市の姉妹都市・米国カリフォルニア州メンドシーノからの訪問団と書道を通じた交流会が開かれた。子ども同士の初めての芸術交流企画で、両地域の将来を担う子どもたち約50人が手を携え、作品「夢」を完成させた（2015.7.8）

窓拭きの後流しそうめん

大町市美麻の小中学生ボランティア交流体験プログラム「夏休みお手伝いし隊」が7日、美麻総合福祉センターで開かれた。美麻小中学校の児童14人が参加し、公共施設の窓拭きに汗を流しながら、七夕飾りや流しそうめんなど季節の行事を通した交流を楽しんだ。（2015.8.9）

地域挙げて大会盛り上げ

文部科学大臣杯第71回全日本大学対抗選手権自転車競技大会（インカレ）が8月30日、大町市美麻を会場に開かれた。美麻でのインカレは今年で3回目。美麻地区を中心とした住民約80人が交通整備や会場設営などボランティアとして参加し、地域挙げて大会を盛り上げた。（2015.9.2）

中山高原でソバ満開

大町市美麻の中山高原で、ＮＨＫ連続テレビ小説「おひさま」にも登場したソバ畑のソバの花が見ごろを迎えている。「白いじゅうたん」の上にはトンボが飛び交い、秋の風景を見せている。9月中旬まで見ごろとなりそうだ。（2015.9.5）

大町で土砂崩落や停電

10日からの大雨は、大北地域にも大きな爪あとを残した。大町市内では、八坂、美麻を中心に、土砂崩落や流出、倒木が発生し複数箇所の道をふさいだ。八坂地区では全世帯の約7割に及ぶ275世帯が停電になるなど住民生活に支障をもたらした。人的被害はなかった。

美麻地区から信州新町に通じる県道川口大町線では10日午後7時ころ、土砂崩落や倒木により全面通行止めとなった。

(2015.9.12)

美麻・白馬に復興の音楽

昨年11月の神城断層地震で家屋倒壊など甚大な被害に見舞われた大町市美麻や白馬村で15日、数々のヒット曲を持つシンガーソングライター中西圭三さんの復興支援チャリティーコンサートが開かれ、復興を願う音楽が被災地に響いた。

(2015.9.16)

地元産ジビエ料理に挑戦

大町市美麻小中学校の7年生7人はこのほど、地元の鹿肉を使ったジビエ料理に取り組んだ。生徒自身が下調べしたレシピを参考に、ロースト肉と竜田揚げを作り、地域の特産業や地産地消の意味について学んだ。今後はオリジナル料理も考案する。

(2015.9.18)

美麻地区で敬老会

大町市美麻地区の敬老会が18日、ぽかぽかランド美麻で開かれた。地域の高齢者約80人が参加し、健康と長寿を祝った。

(2015.9.19)

美麻で「おやき恋訪」

大町市美麻地区の道の駅ぽかぽかランド美麻で20日、大型連休にあわせ、名産地のおやきを食べ比べる「アルプスおやき恋訪」が開かれた。美麻と長野市中条、小川村から味自慢のおやきが集まり、観光客らでにぎわった。

(2015.9.25)

岩魚使った献立作り

美麻小中8年生が挑戦

大町市立美麻小中学校8年生14人がこのほど、地域のイワナを使った和食献立を学校給食などに提案しようと献立作りを行った。

(2015.10.4)

名人と里山歩き〝秋〟発見

大町市立美麻小中学校1・2年生15人が5日、学校周辺の山林でキノコ採りを行った。学校支援ボランティアで地元のキノコ名人、種山博茂さんの手ほどきで身近な里山を歩き、〝秋〟を見つけて歓声を上げた。

(2015.10.8)

みあさ保園児が食育体験

大町市美麻のみあさ保育園児が15日、同地区大塩のサツマイモ畑で芋掘りを行った。年少～年長の10人の園児たちが、土の中から顔をのぞかす大きな紅色のイモに、実りの秋の収穫の喜びを味わった。

(2015.10.18)

美麻地区皮切りに市内文化祭

大町市美麻地区の文化祭は23、24の両日、ぽかぽかランド美遊で開催した。市内文化祭の皮切りで、美遊前の広場には美麻産イワナのから揚げや手打ちうどんのほか、ケーキやおやきなどの販売も並びにぎわった。展示発表は小中学生や保育園児の作品に加え、地元グループによる絵画やこけ玉も並んだ。

(2015.10.27)

伝統の松崎和紙で卒園証書

大町市美麻の「ぽかぽかランド美遊」で15日、美麻市が開かれた。みあさ保育園の年長児8人が、同市社松崎に伝わる松崎和紙の紙すきを体験し、卒園証書を作った。

子どもたちは職人の指導を受けながら、木のますを紙を溶かした水にくぐらせ、膜を張っていった。モミジやヒイラギなどの葉っぱや毛糸、色紙などを乗せ、自分だけの和紙を作っていった。

(2015.11.18)

タブレットでの授業初公開

大町市の美麻小中学校で20日、市内初のＩＣＴ授業公開が行われた。タブレット端末や電子黒板などの機器を活用した授業の様子を、市内の教職員ら35人が参観した。

(2015.11.21)

もちつきとしめ縄作り

大町市美麻青具の旧中村家住宅で2日、美麻小中学校の5年生9人と、同地区高齢者学級のお年寄り25人による交流会が開かれた。もちつきとしめ縄作りを行い、あんこやきなこ、ごま味の三色もちなどの昼食をともに取り親睦を深めた。

(2015.12.5)

2016年

伝統の巻き俵2年ぶりに

大町市美麻青具の国指定重要文化財・旧中村家住宅で6日、約300年続く、正月伝統の縁起物「巻き俵」の制作が行われた。昨年、神城断層地震の余震発生の可能性などを考慮して行事を自粛したため、2年ぶりの実施で、新年に地域の安全や繁栄を願った。

巻き俵は大北地域に広く伝わる行事で、芯の部分に毎年新たなわらを重ねてまくことで家の繁盛などを願う。同住宅では母屋が建てられた元禄十一年（1698年）から続けられ、その後、旧美麻村や市文化財センターに引き継がれ行事を継続している。（2016.1.7）

身近なメディアを理解

大町市の美麻小中学校の5年生9人が4日、社会科学習の一環で大糸タイムス社を見学に訪れた。記者や印刷などの社員に新聞づくりを「取材」し、身近な情報を伝えるメディアの役割に理解を深めた。（2016.2.6）

美麻小中学校7年生が立志式

大町市美麻小中学校(塩島学校長)で4日、「立志式」が開かれた。同校の7年生17人が、教諭や保護者・来賓の見守る中、立志の決意を表明した。立志式は昔の「元服」にちなんで祝い、大人になる自覚を深めるきっかけとする。近年、中学校の行事などで広まる傾向があり、同校では2年目。（2016.3.8）

消防訓練で共助を構築

大町市春季火災予防運動の消防総合訓練が6日、市美麻支所周辺で行われた。

一昨年の神城断層地震の教訓を生かし共助体制を構築する住民参加型訓練と位置づけ、住民、消防団員、消防署員など約130人が参加。地区内外で火災が相次ぐ中で、消火器や消火栓を使った初期消火訓練に取り組んだ他、がれきを取り除き人命を救助する実践的な災害時対応も学んだ。（2016.3.9）

震災乗り越え「ようやく」

大町市美麻の公共温泉宿泊施設「ぽかぽかランド美麻」（指定管理者F&Mカンパニー）は、新温泉棟など全館フルリニューアルオープンを8月6日に控え、23日に一部営業を再開する。温泉棟を中心に一昨年11月の神城断層地震で被災した同施設。震災から1年6カ月、全館オープンに向け、施設スタッフは「ようやくここまできた」と胸をなでおろす。（2016.4.23）

美麻福祉企業センターが竣工

大町市美麻二重の美麻福祉企業センターの全面改築工事が完成し、竣工式が6日、現地で開かれた。

式典には市や工事関係者、利用者など約30人が参加。テープカットで完成を祝った。牛越徹市長は「今後も福祉事業の拠点として、地域に溶け込めるように力を尽くしたい」と話した。（2016.5.8）

太鼓携えメンドシーノへ

大町市美麻小中学校の5、6年生19人は13日、姉妹都市の米カリフォルニア州メンドシーノに出発する。子どもたちは連日、訪問先で披露する太鼓の練習に打ち込んできた。日本伝統の響きを手土産に、6泊8日の異文化体験に心躍らせている。

同校体育館で11日夜、海外ツアー客を太鼓でもてなす子どもたちの姿があった。訪問先での本番を見据えた演奏で、太鼓を叩く手にも力が入っていた。（2016.5.13）

学校支援ボラと種まき

コミュニティ・スクールとして運営する大町市の美麻小中学校(塩島学校長)で9日、学校支援ボランティアが参加

したマリーゴールドなどの花の種まきが行われた。秋の文化祭「梨の木祭」に向け、校門横の花壇を彩る。

（2016.5.14）

熊本地震へ義援金

大町市の美麻小中学校（塩島学校長）の児童・生徒たちが、自分たちでできることで熊本地震の被災者へ義援金を届けたいとこのほど、美麻支所を訪れ、義援金2万円を寄付した。宮沢雄一館長が受け取り日本赤十字社長野県支部大町市地区を通して被災地へ送られる。

（2016.6.12）

地域で大会支え10年

2016年全日本学生ロードレースカップシリーズ第3戦が17日、大町市美麻地区を会場に開かれた。全国各地の大学生約300人が出場し、新緑の山麓を駆け抜けた。同大会の美麻開催はことしで10年目。大会誘致にはじまり、各回の準備や運営に地区住民が積極的に携わる中、「地域おこし」活動として定着している。

（2016.7.20）

歌と踊りで「信濃の国」

大町市美麻小中学校の4年生が8月7日、小規模学級による音楽の全国コンクール「Keep on Smiling『小さな音楽会』」（東京都）に出場する。県歌「信濃の国」を歌と踊りで表現する。音楽会はエフエム大阪などが主催し、1クラス10人以下の小学生を対象にした初開催のコンクール。全国80組の応募者の中から、2回の審査を突破した10組が出場する。

（2016.7.23）

フリーペーパー作り学ぶ

美麻小中8年生「鶴と亀」発

大町市美麻小中学校（塩島学校長）の8年生（中学2年生）が、地域の魅力を伝えるフリーペーパー作りに取り組んでいる。総合的な学習における「市民科学習」の一環として、卒業までの2年間をかけて発行までこぎつける。

（2016.7.28）

わらべ歌マッサージ学ぶ

美麻公民館で親子教室

大町市美麻公民館は26日、美麻総合福祉センター梨嶺母子健康センター多目的ホールで1歳未満児を対象とした親子教室「コアラクラブ」を開いた。

（2016.7.30）

ぽかぽかランド美麻全館再開

神城断層地震で被災した大町市美麻の温泉宿泊施設「ぽかぽかランド美麻」が6日、温泉棟改修工事を終え全面再開した。合わせて地元による復興イベント「道の駅まつり」が行われ、住民や来場者で被災を乗り越えた再開を祝った。

（2016.8.7）

地域住民集いつながり

大町市の美麻地区社会福祉協議会（飯沢要会長）などでつくる実行委員会は20日、「美麻ふれあいまつり」を美麻総合福祉センター梨嶺で開いた。幅広い世代の地域の住民が集い触れ合う場として、約200人が楽しい時間を過ごした。

（2016.8.23）

球技で親睦地域の絆深める

大町市美麻公民館は28日、恒例の夏季球技大会を美麻小中学校体育館などで開いた。高校生から70代まで幅広い世代から約120人の住民が集い、ソフトバレーボールやゲートボールを通じて親睦を深めた。

（2016.8.31）

美麻で移住検討者にツアー

大町市は3日、市内への移住を考える子育て世代を対象とした「信濃大町子育て体感ツアー」を美麻地区で実施した。美麻小中学校の学校公開（オープンスクール）に合わせ、地域ぐるみで子どもを見守る市内の特色ある子育て環境を移住検討者に紹介した。

（2016.9.6）

美麻でおやき食べ比べ

大町市美麻の道の駅「ぽかぽかランド美麻」で17日、美麻、上水内郡小川村、長野市中条の郷土食おやきを食べ比べるイベント「北アルプスおやき恋訪」が開かれた。神城断層地震災害からの再生を祝う復興イベントの一環で、地場産品が並ぶ「美麻市」も開催し、秋の行楽シーズンで訪れた大勢の観光客や市民が、地域自慢の味を楽しんだ。

（2016.9.23）

美麻小中学生の活躍光る

地区文化祭でCATV公開収録

大町市の平成28年度美麻地区文化祭は22、23の両日、ぽかぽかランド美遊で開かれ、美麻小中学生の活躍が光った。準備も含め文化祭運営に積極的に携わった。市ケーブルテレビに提供するための公開収録を担当したり、地域課題に

迫る学習内容を発表するなど地域とのつながりを意識した。

（2016.10.25）

ふたえ市民農園開設20年

大町市美麻の「ふたえ市民農園」は今年、開設から20年を迎えた。現在、都市住民を主に約40世帯が農園内の居住施設で田舎暮らしを満喫中。交流会や季節のイベントの企画運営などコミュニティーも確立され、「大町ファン」の拠点施設の一つとして定着している。

同農園収穫祭は5日、居住者の共有スペースである農園内の交流促進センターで開かれた。居住者約60人が参加し、仲間内で栽培収穫した打ちたてのそばや、各自持ち寄りの手間暇かけた一品料理で交流した。（2016.11.6）

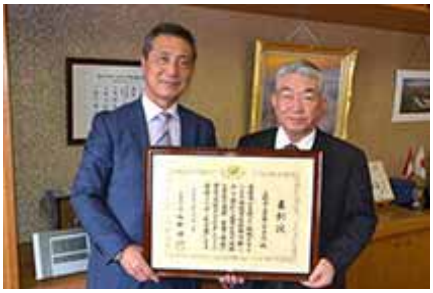
大きな舞台で観客魅了
源流美麻太鼓ばち納め演奏会

大町市美麻地区の太鼓グループ「源流美麻太鼓」（子ども会25人大人会8人）は18日、ばち納め演奏会「源流からの鼓動28」を市文化会館大ホールで開いた。数百人が収容できる大規模会場での公演は初めてだったが、メンバーたちの表情はりりしく、躍動感ある演奏で観客を魅了した。

美麻の大自然を表現した新曲「風まかせ」など鍛錬の成果を披露した。保科充志会長は、一部の地区移住者による大麻事件について触れ「（美麻に対する悪い）イメージを太鼓の音で払拭する。美麻の広告塔としてまい進していく」と決意を語った。

（2016.12.21）

協働の学校づくり高評価
美麻小中が文部科学大臣表彰



大町市の市立美麻小中学校は、平成28年度の地域学校協働活動で、文部科学大臣表彰を受けた。塩島学・校長と美麻学校運営協議会の北沢伊紘男会長は「地域と協働した学校づくりが認められた」と表彰を喜び、魅力ある学校づくりや、地域一体となった育成のさらなる推進を誓った。

（2016.12.17）

2017年
未来創造大賞で最高賞

大町市美麻地区の住民組織「美麻地域づくり会議」（前川浩一会長）は、長野など中部5県の地域づくり活動を表彰する本年度の「第17回中部の未来創造大賞」で最高賞の大賞を受賞した。教育現場への積極的参画や広報誌発行（みあさづくり通信）、「美麻市」開催など独自性のある住民主体の地域づくり活動が認められた。

同会議は、2年の準備期間を経て大町市、八坂村との合併を機に平成18年に発足した。地区全体を網羅したネットワークを構築する中、地域づくり活動を展開している。特に学校現場で実績があり、総合学習の講師を住民が努めたり、国際交流を支援するなど、地域の子どもたちは地域が育てるを実践。国などが進める「コミュニティ・スクール」活動などに実効性を持たせた。

中部の未来創造大賞は、国土交通省中部地方整備局や長野、岐阜、静岡、愛知、三重の5県などでつくる同大賞推進協議会が主催。今年は、▽住民、▽企業・学校、▽行政の3部門で33件の応募があり、大賞1件、優秀賞3件、特別賞2件が選ばれた。美麻地域づくり会議は、初の応募で大賞を受賞した。

前川会長と北沢孝一副会長はこのほど、受賞報告で市役所を訪れ牛越徹市長とまちづくりについて懇談した。

前川会長は「多くの方が関わりここまでの活動になった。活動開始から10年の節目での受賞。やってきたことに対する評価は、やりがいにつながる。今後も活動の幅を広げながら地域づくりに本気に取り組む」と話した。

牛越市長は「これまで取り組んできた成果。大きなこと。市としても協力していきたい」と今後の展開に期待を寄せた。

（2017.1.10）

受賞報告に訪れた前川会長（右から2人目）と北沢副会長（左から2人目）

大糸タイムス様のご理解とご協力により作成することができましたことに、この場を借りて感謝申し上げます。